【第三種郵便物認可】 日経産業新聞

新名所・多機能・エコに支持

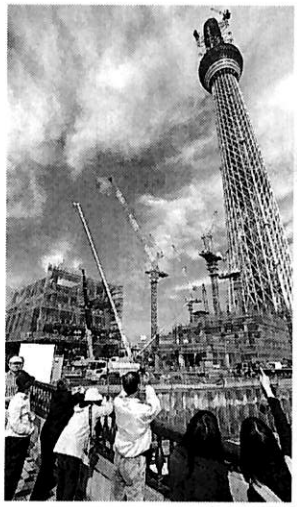
11年注目度ランキング

日経産業地域研究所が作成した2011年の注目度ランキングで1位になった「東京スカイツリー」は、アンケート回答者106人のうち26人が1位（配点は5点）に選んだ。合計得点は199点で、2位「スマートデバイス」（98点）の2倍以上と圧倒的な支持を集めた。（1面参照、詳細を10日発行の「日経消費ウオッチャー」11月号に）

2011年の注目度予想ランキング

順位	項目名	概要	得点
1	東京スカイツリー	高さは634mと自立式電波塔として世界一。東京の新名所に	199
2	スマートデバイス	ネット接続して多用途に使える電子機器の総称。市場が急拡大	98
3	電気自動車	排ガスを出さず環境性能は抜群。車種増え、充電設備も整備	94
4	電子書籍ビジネス	携帯端末向けに書籍や雑誌などを電子配信。企業の参入相次ぐ	91
5	超格安航空会社	大手航空より運賃が圧倒的に安い航空会社が続々と日本に就航	76
6	羽田空港・新国際線ターミナル	32年ぶりに国際定期便が復活。ユニークな商業施設も話題に	73
7	キャリアフリーケータイ	通信会社（キャリア）の枠を超えて好みの携帯電話が使える	71
8	高性能3Dテレビ	裸眼で3D映像を視聴できる商品が登場。高画質競争も激しく	69
9	モバイル3D	携帯電話、デジタルカメラ、ゲーム機などでも3D対応広がる	48
10	電子ペーパー機器	丸めたり折り曲げたりできる電子ペーパー機器の商品化も期待	47

スカイツリー 新しいシンボルに



東京スカイツリー周辺は大勢の見物客でにぎわう

スカイツリーは東京都墨田区押上に建設中の新電波塔。11年12月に完工し、12年春開業する。完成後の高さは634メートル、東京タワー（333メートル）をはるかに上回る。

事業主体の東武鉄道は周囲にオフィスのほか飲食、物販など約300店が入る複合商業施設を整備。水族館やプラネタリウムも併設する。

アンケート回答者からは「久しぶりに日本人が自信を取り戻せる世界一の建造物で国民の関心も高い」（日本工業大大学院の横田悦二郎教授）、「都内各所からよく見える新しい東京のランドマークの誕生」（立教大の安島博幸教授）など、歓迎する声が相次いだ。

地域活性化に向け、地元も商店街や交通インフラ整備に取り組んでいる。「墨田・台東などの情緒的な下町文化への関心が高まり、周遊型街歩きによる商店街再生も期待できる」（商い創造研究所の松本大地社長）。

スカイツリー効果で東京エリアの変化を予想する声もある。トレンドアナリストの佐藤俊郎氏は「すでにこの地域に仕事場を移し始めたアーティストやクリエータもおり、面白いスポットが誕生しそう」とにらむ。

シャープが12月に発売する「ガラパゴス」はサイズが2種類

スマートデバイス ネット接続し情報活用

注目度2位のスマートデバイスは、米アップル「iPad（アイパッド）」のヒットを機に様々な製品を開発する動きが広がっている。

シャープは12月にタブレット型の「ガラパゴス」を発売するほか、台湾アスースや米ヒューレット・パッカードなども競合製品を投入する。

千葉商科大の山本恭裕教授は「いつでもどこでもネットに接続し、リアルタイムで必要な情報を活用する生活が定着する」と予想。「パソコン以外にもデジタルデータの利用シーンが広がり、利用者も高齢者を中心に広がる」（BCNの道越一郎エグゼクティブアナリスト）との見方もある。

スマートデバイスの普及に連動して注目されるのが4位の「電子書籍ビジネス」だ。「単に紙が電子データに変わるだけでなく、動画や双方向通信など新たな楽しみ方が期待できる」（AV評論家の藤原陽祐氏）。

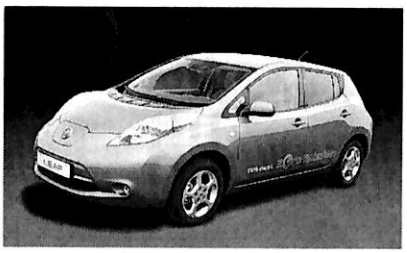
3位の「電気自動車」は環境性能の高さが大きな魅力だ。エコカーへの関心は国内外で高まっており、「三菱自動車に続いて日産自動車も量産車種を販売することで間違いなく注目を浴びる」（自動車サイト「コリズム」の大岡智彦編集長）。

価格の高さや充電インフラなど課題もあり「当面はたくさん売れる大ヒット車にはならない」（自動車評論家の松下宏氏）。それでも「将来的に自動車産業・ビジネスモデルを根幹から変える可能性がある」（現代文化研究所の黒岩祥太氏）。

5位の「超格安航空会社」と6位の「羽田空港・新国際線ターミナル」は日本人の旅行シーンを大きく変えそう。「海外旅行がより身近になり、地方都市に住む人の海外旅行需要を掘り起こすかもしれない」（ツーリズム・マーケティング研究所の高松正人社長）。

8位に「高性能3D（3次元）テレビ」、9位に「モバイル3D」が入るなど、11年も3Dは注目分野だ。法政大の吉田健治教授は「かつての3Dブームと違い、機器、コンテンツ、放送・配信環境が整った今回は本物」と予想している。

（日経産業地域研究所 土居輝行）



「リーフ」は高性能のリチウムイオン電池を搭載

電気自動車 ビジネスモデル根幹から変更も

▼調査の方法　2011年に注目されそうな商品、サービス、イベント、トレンドなどのキーワードを50項目選んでアンケート調査票を作成。9月中旬に企業関係者や大学教授、評論家など各界の専門家に送り、106人から回答を得た。調査では「11年に特に注目されると思うもの」を5つ選んで1～5位を付けてもらった。1位を5点、2位を4点、3位を3点、4位を2点、5位を1点として合計得点を算出、ランキングにした。この記事の詳細は8日更新の「日経消費ウオッチャー」オンライン・データベースでも見られます。